

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鈴鹿工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科	夜・通信			41	42	7	
	電気電子工学科	夜・通信			25	26	7	
	電子情報工学科	夜・通信		1	17	18	7	
	生物応用化学科	夜・通信			41	42	7	
	材料工学科	夜・通信			31	32	7	
	総合イノベーション工学専攻	夜・通信		9	20	29	7	
(備考) 生物応用化学科のみ一般科目「化学」を含めない合計数としている。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校 HP により公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/syllabus/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鈴鹿工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鈴鹿工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画(シラバス)の作成過程 前年度に次年度の授業計画(シラバス)について、教務委員会で諮り策定する。 ・授業計画の作成・公表時期 本校HPにて公表している。(4月) また、授業の方法及び到達目標、成績評価の方法や基準等については、シラバスに記載し、本校HPにて公表している。 http://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/syllabus/	
授業計画書の公表方法	HPにて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学科学生 履修・単位修得・修了認定 https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2021/06/gakkarisyutanisyuryoR03.pdf 専攻科学生 履修・単位修得・修了認定 https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/20200601010.pdf	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【学科生】 中間試験、前期末及び学年末の成績順位については、「成績順位の付け方に関する取扱い」第1項に基づき、成績順位を決定し、学年末には、成績の分布状況を把握している。 なお、本取扱いについては、本校学生便覧で学生に周知している。 (成績順位の付け方に関する取扱い) 1 中間試験、前期末及び学年末の成績順位 各学科ごとに各学年で履修した必修/コース必修科目(選択必修科目を除く)の平均点による。 【専攻科生】 「専攻科成績順位の付け方に関する取扱い」に基づき成績順位を決定し、学年末には、成績の分布状況を把握している。 (専攻科成績順位の付け方に関する取扱い) 1 取得した単位ごとに、優を3点、良を2点、可を1点として点数を合計し、順位を付ける。 但し、外国語については、優を6点、良を4点、可を2点とする。 なお、本取扱いについては、本校学生便覧で学生に周知している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	本校学生便覧及び本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/handbook/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) - 卒業の認定に関する方針の具体的な内容 ディプロマポリシーを各学科・専攻科にて策定している。策定内容等については、次のとおりである。 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP - 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 ディプロマポリシー、卒業認定に関する規則、専攻科の修了認定に関する規則に基づき、卒業・修了判定会議を実施のうえ、校長が卒業・修了を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	卒業認定に関する規則 http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/20190704001.pdf 専攻科の修了認定に関する規則 https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/20200601011.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鈴鹿工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本校 HP に掲載 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide_index/disclosure/

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 (公表方法：) (概要)
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：) (概要)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：) (概要)
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：) (概要)

学部等名 機械工学科

教育研究上の目的 (公表方法： 本校 HP にて公表

http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2014/10/kyouikukennkyuu_mokuteki.pdf)

(概要) 教育理念 (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。 (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力和実践力を育成する。 (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。 (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。 養成すべき人材像 (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材 (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力和実践力を備えた人材 (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材 (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材 教育目標 機械工学に関する理論と知識（材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等）、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP）
(概要) 機械工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養 2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力 3. 機械工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識 4. 機械工学の専門としての、材料系、熱・流体系、運動・制御系の知識 5. ものづくりのための、素材、設計・製図、加工・生産、計測の知識 6. 機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力 7. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力 8. 技術者としての倫理観
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#CP）
(概要) 機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。 機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5 年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。 一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報処理の基礎教育を行います。また機械の設計や開発を行う技術者となるために必要な基盤となる材料系（材料力学、材料学）、熱・流体系（熱力学、水力学）、運動・制御系（機械力学、制御工学）といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築しています。特にものづくりのための、設計・製図（機械設計製図、機械設計法）、加工（機械工作実習、機械工作法）の知識と技術を活用する課題解決型科目（総合実習、創造工学）を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにします。 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校 HP にて公表

http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP
(概要) 本校では、以下の方針に基づき、入学生を選抜します。 1. 求める入学志願者像 (1) 中学における学習内容をしっかりと理解している人 (2) 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人 (3) 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人 (4) 他人を思いやり、協調していける人 2. 入学者選抜方針及び選抜の方法 本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生を選抜を基本とします。 入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国生徒特別選抜」を行います。 推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。 学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国生徒特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2014/10/kyouikukennkyuu_mokuteki.pdf）
(概要) 教育理念 (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。 (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。 (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。 (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。 養成すべき人材像 (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材 (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材 (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材 (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材 教育目標 電気電子工学に関する理論と知識(電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信)並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP）
(概要) 電気電子工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養 2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力 3. 電気電子工学の基礎として、数学、自然科学および情報技術の知識 4. 電気電子工学の専門として、電気磁気学、回路系、エネルギー・機器系、物性・デバイス系、計測・制御・情報系および設計・製図の知識 5. 電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解

決できる能力 6. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力 8. 様々な技術を社会に役立てるために必要な高い倫理観
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#CP）
（概要） 電気電子工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。 電気電子工学を理解する幅広い知識を養うために、5 年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。 一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報処理の基礎教育を行っています。 また、電気電子工学分野の技術者となるために必要な電気磁気学、回路系（電気回路、電子回路）、エネルギー・機器系（電気機器、電力システム）、物性・デバイス系（電子物性基礎、半導体工学）、計測・制御・情報系（電気電子計測・電子制御基礎）、設計・製図（電気電子製図）などの専門知識が習得できるようにカリキュラムを構築しています。そして、電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用する課題解決型科目（創造工学、卒業研究）を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにします。 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP）
（概要） 本校では、以下の方針に基づき、入学生を選抜します。 1. 求める入学志願者像 (1) 中学における学習内容をしっかりと理解している人 (2) 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人 (3) 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人 (4) 他人を思いやり、協調していける人 2. 入学者選抜方針及び選抜の方法 本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生を選抜を基本とします。 入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行います。 推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。 学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。

学部等名 電子情報工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2014/10/kyouikukennkyuu_mokuteki.pdf） （概要） 教育理念 （１）広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。 （２）科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。 （３）未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。 （４）心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。 養成すべき人材像 （１）生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材 （２）高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材 （３）課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材 （４）コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材 教育目標 電子情報工学に関する理論と知識（電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等）及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP） （概要） 電子情報工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養 2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力 3. 電子情報工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識 4. 電子情報工学の専門としての、電気電子系、情報通信系の知識 5. ものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術の知識 6. 電子情報工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力 7. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力 8. 技術者としての倫理観
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#CP） （概要） 電子情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。 電子情報工学を理解する幅広い知識を養うために、5 年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。 一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報処理の基礎教育を行います。 また、ハードウェアやソフトウェアの設計開発を行う技術者となるために必要な基盤となる電気電子系、情報通信系といった電子情報工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築しています。特にものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術を活用する実験科目、課題解決型科目を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにします。 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価

方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP） （概要） 本校では、以下の方針に基づき、入学生を選抜します。 1. 求める入学志願者像 (1) 中学における学習内容をしっかりと理解している人 (2) 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人 (3) 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人 (4) 他人を思いやり、協調していける人 2. 入学者選抜方針及び選抜の方法 本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生を選抜を基本とします。 入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行います。 推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。 学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。
学部等名 生物応用化学科 教育研究上の目的（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2014/10/kyouikukennkyuu_mokuteki.pdf） （概要） 教育理念 (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。 (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。 (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。 (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。 養成すべき人材像 (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材 (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材 (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材 (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材 教育目標 化学に関する理論と知識（無機化学系科目、有機化学系科目、分析化学系科目、生物化学系科目、物理化学系科目等）及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識（工業化学系科目、化学工学系科目、設計・システム系科目、環境工学系科目、細胞工学系科目、遺伝子工学系科目、生体材料工学系科目等）並びに豊富な実験技術を習得させるとともに、創造性を養う。 卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP）

(概要) 生物応用化学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養 2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力 3. 応用化学および生物工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識 4. 化学に関する理論と知識（無機化学系、有機化学系、分析化学系、生物化学系、物理化学系）、ならびに実験技術 5. 応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門知識（工業化学系、化学工学系、設計・システム系、環境工学系、細胞工学系、遺伝子工学系、生体材料工学系）、ならびに実験技術 6. 応用化学あるいは生物工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力 7. 実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力 8. 技術者としての倫理観
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#CP）
(概要) 生物応用化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。 応用化学・生物工学を理解する幅広い知識を養うために、5 年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。 一般科目群（基本科目）として、人文社会（国語、歴史、地理、倫理・社会、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報技術（情報処理）、技術者倫理（技術者倫理入門）による教養教育を行います。また、化学に関する基礎専門科目として、無機化学系（無機化学）、有機化学系（有機化学、高分子化学）、分析化学系（分析化学、機器分析化学、環境分析化学）、生物化学系（生物化学、基礎細胞生物学、微生物学）、物理化学系（物理化学、界面化学）、および実験・実習（生物応用化学実験、情報処理応用）などの専門科目群（基本科目）を用意しています。さらに、応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門科目として、工業化学系（精密合成化学、無機化学、有機工業化学、無機工業化学、電気化学、機能材料工学）、化学工学系（化学工学、反応工学、生物化学工学）、設計・システム系（化学設計製図）、環境工学系（環境工学）、細胞工学系（細胞工学、タンパク質化学）、遺伝子工学系（分子生物学、遺伝子工学）、生体材料工学系（生体材料工学）、実験・実習（応用化学・生物化学コース別実験）、課題解決型科目（創造工学、卒業研究）などの高い専門知識・技術を身につける専門科目群（基本科目）を体系的に配置することで、素材・生産・環境を総合的に捉えられる創造性豊かな実践技術者に必要な能力を身につけられるようにします。 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP）

(概要) 本校では、以下の方針に基づき、入学生を選抜します。 1. 求める入学志願者像 (1) 中学における学習内容をしっかりと理解している人 (2) 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人 (3) 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人 (4) 他人を思いやり、協調していける人 2. 入学者選抜方針及び選抜の方法 本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生を選抜を基本とします。 入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行います。 推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。 学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。

学部等名 材料工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2014/10/kyouikukennkyuu_mokuteki.pdf)
(概要) 教育理念 (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。 (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。 (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。 (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。 養成すべき人材像 (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材 (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材 (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材 (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材 教育目標 材料工学に関する理論と知識（材料の物理と化学、材料の構造・設計・物性・機能、製造プロセス等）及び豊富な実験技術を習得させるとともに、それらを応用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP）
(概要) 材料工学科では、鈴鹿高専の教育目標のもと、以下の知識および能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 人文社会の基礎知識と幅広い教養 2. 英語によるコミュニケーションの基礎能力 3. 材料工学の基礎としての、数学、自然科学および情報技術の知識 4. 材料工学の専門としての、金属材料、無機材料、有機材料の知識 5. 材料の理解に必要な材料物性と物理化学の知識 6. 材料の理解に必要な分析・評価の知識 7. ものづくりのための、設計・製図、加工の知識 8. 実験や実習を通じて、材料の合成・評価の技術、および他者と協働しながら課題を解

決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力 9. 材料工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力 10. 技術者としての倫理観と公正な態度
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#CP ）
（概要） 材料工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。 材料工学を理解する幅広い知識を養うために、5 年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。一般科目として人文社会（国語、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学）、情報処理の基礎教育を行っています。 材料の設計や開発を行う技術者となるために必要な基盤となる金属材料系（金属材料学、鉄鋼材料学）、無機材料系（無機化学、分析化学）、有機材料系（有機化学、高分子化学）、材料物性系（材料組織学、結晶解析学）、物理化学系（物理化学、量子力学）といった材料工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築しています。また、分析・評価系（材料評価学、材料力学）およびものづくりのための設計・製図、加工系（設計製図、機械工作法）、ならびに習得した知識と技術を活用する課題解決型科目（ものづくり実習、創造工学、卒業研究）を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力、倫理観と公正な態度を身につけられるようにします。 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が 60 点以上となることによって単位を認定します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP）
（概要） 本校では、以下の方針に基づき、入学生を選抜します。 1. 求める入学志願者像 (1) 中学における学習内容をしっかりと理解している人 (2) 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人 (3) 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人 (4) 他人を思いやり、協調していける人 2. 入学者選抜方針及び選抜の方法 本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とします。 入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国子女特別選抜」を行います。 推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。 学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力 の試験及び調査書の合計点を評価して選抜します。帰国子女特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜します。
学部等名 総合イノベーション工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：本校 HP にて公表

http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2014/10/kyouikukennkyyu_mokuteki.pdf
(概要) 教育理念 (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。 (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。 (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。 (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。 養成すべき人材像 (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材 (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材 (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材 (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材 教育目標 環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーに関連する分野で、社会や地域ニーズの変化に柔軟かつ効果的・総合的に対応できる高度で幅広い知識を習得させるとともに、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造でき、グローバルに活躍できる力を身につけた人材を育てる。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#DP）
(概要) 総合イノベーション工学専攻では、専攻科の教育方針および総合イノベーション工学専攻の教育目標のもと、所定の単位を修得し、以下の知識および能力を身につけた学生に対して修了を認定します。 1. <視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。 2. <技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。 3. <意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。 4. <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。 5. <専門> 基礎工学に加え、主となる専門分野において環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーの各コースに関する専門工学の知識を習得し、それを活用できる。 6. <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。 7. <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。 8. <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#CP）
(概要) 総合イノベーション工学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下の方針でカリキュラムを構成し、教育課程系統図に示しています。 1. <視野>に関連した科目（言語表現学特論、国際関係論等）を配置する。 2. <技術者倫理>に関連した科目（技術者倫理）を配置する。 3. <意欲>に関連した科目（特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ）を配置する。 4. <基礎>に関連した科目（代数学特論、応用物理学等）を配置する。 5. <専門>に関連した科目として、環境・資源コースでは、（海洋環境学、資源工学等）を配置する。 エネルギー・機能創成コースでは、（次世代エネルギー工学、材料強度工学等）を配置する。 ロボットテクノロジーコースでは、（実践メカトロニクス、制御機器工学等）を配置する。

6. <展開>に関連した科目（総合イノベーション工学実験、特別研究Ⅰ、Ⅱ）を配置する。 7. <発表>に関連した科目（特別研究Ⅰ、Ⅱ等）を配置する。 8. <英語>に関連した科目（技術英語Ⅰ、Ⅱ、英語総合Ⅰ、Ⅱ等）を配置する。 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることによって単位を認定します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校HPにて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP）
（概要） 本校では、以下の方針に基づき、入学生を選抜します。 1. 求める志願者像 (1) 科学技術の発展に寄与する意欲のある人 (2) 自らの向上をめざして継続的に自己学習を行う意欲・適性のある人 (3) 論理的に物事を考える適性を持つ人 (4) 豊かな想像力を持ち、何事にも積極的に挑戦する意欲・適性のある人 (5) 広い視野を持ち、将来、国際社会で活躍する意欲・適性のある人 2. 入学者選抜方針 本校専攻科では、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者の育成を目的とし、専攻科修了時にこの目的を達成できる高い可能性をもつ学生の選抜を基本とします。 このため、学校長等の推薦による選抜及び社会人特別選抜においては、科学技術の発展や国際社会への貢献に向けて継続的に学習しようとする意欲、論理的思考能力などの適性、専門分野に関する基礎知識などを面接試験により評価し、推薦書（社会人特別選抜の場合は業績調書）及び調査書の内容と併せて総合評価します。 学力選抜においては、グローバルに活躍できる実践的技術者となるために必要な基礎的知識をTOEIC (Test of English for International Communication: TOEIC IPを含む) またはTOEFL (Test of English as a Foreign Language) iBT のスコアと数学の筆記試験により評価し、調査書の内容による意欲、適性、人物及び専門基礎知識の評価と併せて総合評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本校HPにて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide_index/disclosure/ 【2】教育研究上の基本組織に関すること。（第2号関係）
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
機械工学科	－	4 人	5 人	人	1 人	人	10 人
電気電子工学科	－	3 人	5 人	人	人	人	8 人
電子情報工学科	－	5 人	2 人	1 人	1 人	人	9 人
生物応用化学科	－	6 人	4 人	人	人	人	10 人
材料工学科	－	4 人	3 人	1 人	人	人	8 人
教養教育科	－	10 人	7 人	6 人	人	人	23 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		29 人					29 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：①本校 HP 教員一覧内 https://www.suzuka-ct.ac.jp/corporation/db/ ②国立高専研究情報ポータルの各教員ページ内 https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	42 人	105%	200 人	208 人	104%	若干名	0 人
電気電子工学科	40 人	45 人	112.5%	200 人	212 人	106%	若干名	0 人
電子情報工学科	40 人	42 人	105%	200 人	208 人	104%	若干名	0 人
生物応用化学科	40 人	42 人	105%	200 人	216 人	108%	若干名	0 人
材料工学科	40 人	42 人	105%	200 人	208 人	104%	若干名	0 人
総合イノベーション工学専攻	24 人	26 人	108.3%	48 人	59 人	122.9%	一人	0 人
合計	224 人	239 人	106.7%	1,048 人	1,111 人	106%	若干名	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	42 人 (100%)	14 人 (33.3%)	28 人 (66.7%)	0 人 (0%)

電気電子工学科	38 人 (100%)	20 人 (52.6%)	18 人 (47.4%)	0 人 (0%)
電子情報工学科	35 人 (100%)	14 人 (40.0%)	20 人 (57.1%)	1 人 (2.9%)
生物応用化学科	37 人 (100%)	18 人 (48.6%)	19 人 (51.4%)	0 人 (0%)
材料工学科	40 人 (100%)	19 人 (47.5%)	21 人 (52.5%)	0 人 (0%)
総合イノベーション工学専攻	27 人 (100%)	6 人 (22.2%)	21 人 (77.8%)	0 人 (0%)
合計	219 人 (100%)	91 人 (41.6%)	127 人 (58.0%)	1 人 (0.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) - 授業計画（シラバス）の作成過程 前年度に次年度の授業計画（シラバス）について、教務委員会で諮り策定する。 - 授業計画の作成・公表時期 本校 HP にて公表している。（4 月） また、授業の方法及び到達目標、成績評価の方法や基準等については、シラバスに記載し、本校 HP にて公表している。 http://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/syllabus/

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各学生の学修成果については、本校「履修・単位修得・修了認定」規則に基づき、厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。 学科学生 履修・単位修得・修了認定 https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2021/06/gakkarisyutanisyuryoR03.pdf
--

専攻科学生 履修・単位修得・修了認定 https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/20200601010.pdf また、ディプロマポリシー、卒業認定に関する規則、専攻科の修了認定に関する規則に基づき、卒業・修了を認定している。 卒業認定に関する規則 http://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/gakkarisyutanisyuryoh30.pdf 専攻科の修了認定に関する規則 https://www.suzuka-ct.ac.jp/uploads/2012/03/20200601011.pdf				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位	有・無	単位
	電子情報工学科	167 単位	有・無	単位
	生物応用化学科	167 単位	有・無	単位
	材料工学科	167 単位	有・無	単位
	総合イノベーション工学専攻	62 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：公表方法：公表方法：本校 HP にて公表
<http://www.suzuka-ct.ac.jp/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	397,650 円	
	電気電子工学科				
	電子情報工学科				
	生物応用化学科				
	材料工学科				
	総合イノベーション工学専攻	234,600 円	84,600 円	84,550 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 本校では、週 1 日、授業終了後に教員が研究室に在室し、学生からの質問・相談を受け付けるための時間（オフィスアワーズ）を設けている。 https://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/syllabus/
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 進路支援として、下記のとおり年間計画に基づき、進学ガイダンス等を実施している。 https://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/aftergraduation/
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生のキャンパスライフを支援するための「学生支援室」制度を設けている。学生生活の上で生じる様々な相談ごとや悩みごとに耳を傾け、また問題解決支援をするための学生相談員（本校教職員）や学外カウンセラーを配置している。 http://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/support/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本校 HP にて公表 http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide_index/disclosure/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。